

令和元年度 寒河江市振興審議会・さがえ未来創成戦略に係る外部有識者会議の概要

令和元年 10 月 24 日(火)10:00~11:45

寒河江市役所 1 階 議会会議室

【出席者】委員 16 名 副市長以下事務局

【欠席者】委員2名

有識者意見要旨

【農業振興について】

- ・寒河江市では短期間に収穫が集中するさくらんぼ時期の労働力の確保について注力しており、非常に助かっているという声が聞こえてくる。今後も農協と行政でタイアップしながら、農業体験を兼ねた学生ボランティア等々を含め、収穫の応援体制を作っていただきたい。
- ・新規就農者の確保についてはいろいろな支援があるが、親元就農について、農業のIT化・高機能化が進み、農機の購入費が非常に高額になっていることが障壁となり、後継者が継いでくれないという現状を聞くため、使い勝手の良い就農への助成などについても考えてもらいたい。

【観光振興について】

- ・インバウンド推進も目標にあるのだから、定番の案内事項だけでなく、その場のQ&Aなどに柔軟に英語で対応できる英語ボランティアガイドの人材育成を視野に入れていただきたい。
- ・昨年度ふるさと納税の結果が15万件、つまり、寄附者が全国に15万人おり、今後寒河江市のファンになってくれる可能性がある人達で「関係人口」と言える。今までの観光振興というと名所・旧跡を訪れる人(交流人口)を増やすということが主だったが、関係人口を増やしていき、最終的には定住人口の増加に結び付けるという様に、観光に関する概念の変化が起きている転換期があるので、その辺りも考慮して観光物産振興の戦略について検討をお願いしたい。

【商工振興・雇用について】

- ・寒河江市では定住促進施策を推進しているが、若者が県外から戻ってきて就職しても賃金的に安かったり、労働環境が良くない企業が結構あると聞くので、賃金や労働環境改善に取り組もうとする企業に対して、市で何か支援する施策をしてほしい。
- ・寒河江中央工業団地について、事業数は約90社、働く従業員が約4,200名近くあり、総じて順調に推移していると思われる、行政のご尽力だと感じている。
- ・市街地活性化について、今のチェリーマルシェやフローラさがえだけでは客を呼ぶことが出来ていないのではないか。なお一層フローラ等の充実・改善が必要だと感じる。

【移住について】

・西村山地区のリーダーであるべき寒河江市ならば、近隣から移住されてそれで良しとするのではなく、本来の意味の移住いわゆる進学や就職時に寒河江市から離れた人に移り住んできてもらえるようもう少し大きな観点で移住ないしは定住施策をぜひ進めてもらいたい。

【福祉・介護について】

・認知症サポーター養成について、市内各施設を巻き込んで市が進めているが、県内様々な所で「寒河江市さんの実践はすごいねと」言われ、発信力が有難いと感じている。

【地域づくりについて】

・少子高齢化、農業担い手不足、過疎化、空き家問題など、地区から様々な不安な声が聞こえてくる。地域が今どうなっているのか、市内8地区、中心市街地はもちろんのこと、また、同じように郊外のそれぞれの地区をどう盛り上げていくのかに目を当てていけば、住みやすい寒河江市、将来にも住み続けたい寒河江市に繋がるのではないか。

【都市空間づくりについて】

・「寒河江公園の整備」について、市内を訪れる方々が少しでも街に足を止めてもらうことを考えれば、寒河江公園づくりについてもっと知恵を絞る必要があるのではないか。アンケートにも整備、管理を求める意見が複数あるので検討願いたい。

・寒河江市の中心部に投資が集中していると感じる。それらをもっと郊外の地区に分散させる、バランスをもっと改善することなど検討してほしい。

【その他】

・アンケートの項目にもあるが、寒河江市の住みよさ、それから将来も住み続けたいと市民が思うことが計画の最終目標で、様々な施策も手段であるが、この数値を上げていくことが大事。市民の住みやすさの向上を進めて行けば、市の魅力向上につながるのではないか。

・情報発信やPRについて、他市町村の広報誌などを見ると、行政の取組について具体的に資料が載っており非常に見応えがある。寒河江市でも折角ある市報という媒体をもっと有効活用して市民にお知らせしてはどうか。

・どんな寒河江市にするのか、どの分野をどう評価していくのか、周りと同じようなものではない、寒河江市らしいコンセプトを作った上で、計画見直しと新たな戦略作りを進めてほしい。分野ごと審議をし策定していくことになると思うが、寒河江市の発展に貢献できるような計画を作っていただきたい。